



シリーズ 子どもたちの発達

『練習(いじり)遊び』

生後五ヶ月頃から1歳のお誕生日を迎えるまでの赤ちゃんは、目に見えて成長していくのが分かります。寝返りをうち、ずり這いをするようになり、やがては座り、ハイハイするようになり。そして表情は喜怒哀楽が出て豊かになり、大人との受け答えもするようになっていく…その一日一日の変化が親には嬉しく・喜ばしいことでもあり、また可愛くもある時期なのではないでしょうか？

さて、そんな目に見えて成長していく我が子がこの時期に、どんなことを『学習』しているのか？ということは気になることの一つだと思います。目に見える部分が著しい発達を遂げていく中で、子どもは、もちろん心も脳(頭)も目覚しく発達していこうとしているのです。そして子どもは自身の世界を広げていっている時期でもあるのです。

生理的欲求が一日の大半を占める赤ちゃん時代から、少しずつ自分でアクションしていくこと、そしてそのことにより『変化』をもたらすことは、どんなに興味や好奇心が刺激されることでしょうか。一日の生活の中で、あらゆる場面で、子どもは『遊び』という形で好奇心を満たしながら学んでいっているのです。

今回はこのような子どもの遊び…練習(いじり)遊びについて、考えていきたいと思います。

練習(いじり)遊びは、子どもが自分自身の身体を使って物を動かすことにより、その物の性質や特性・力の加減などを確かめたり発見する中で、自分と物との関係を知り、『知識としての確信を得ていく』という子どもにとって最初の学習と言えるものです。子どもはまだ身体機能が未発達なので、それは主に体の五感(見る・聴く・嗅ぐ・味わう・触る)を通して行われていき

ます。

例えば、子どもは自分の手で持てる物は掴み取り、なんでも口に持っていきこうとします。これは『口』という感覚器官を使って、その物を知ろうとする行為です。「何でも食べ物と思って口に持って行ってしまふ」のではなく、子どもなりに、もてる手段を使って知ろうとする知的な行為なのです。

何度も何度も、口や手で触り尽くしながら確かめていくことで、物の性質を区別したり、触れると変化したり、変化しなかったり、などの自分の力を加えることの意味を知っていくのです。だから繰り返し練習することは、子どもが知的探究心に満ちている証拠でもあります。そして、好奇心からはじまった行為が「知恵」として身に付いていっているのだと思ってみて下さい。子どもの行為は単純な繰り返しのように見えますが、そこには学習のはじまりがあるのです。

つまりは身体の発達のみではなく、考えること(思考)や物事に向かう集中力といったものも養っているといえるでしょう。

また身体発達の面でも、手で触り、手の平のみではなく指先を使うことで手先の器用さも訓練され、十分にハイハイすることで、筋力の強さ・しなやかさ、空間の認知など、身体を動かす練習と脳への刺激を得ています。全身の発達にとって大切な“行動”の時期と言えるでしょう。

この時期に十分に興味・関心を満足させてあげることが大切です。ですから、子どもがじっくりと行為をしている時に、満足のいくまで研究(?!)をさせてあげながら、大人も何をこの子は楽しんでいるのかな? と観察してみると、また違った子どもの姿が見えてくるかもしれません。そして満足できたことで、更に子どもは、次の興味へと意欲を持っていくのです。

子どもは大人のように勉強しようと思って学んでいるわけではありません。こうした日々の繰り返しの中で、自分自身の感覚と運動機能を使いながら、遊びを通して心身ともに発達していているのです。

いじって遊ぶことは子どもが自分の周りの世界を探索していく準備段階の基本でもあります。気になる…その先は？！と何でも試すことがこの時期の子ども の自主的で能動的な姿なのです。

この時期の子どもに必要なことは何かと考えると、子どもが十分に安心して練習遊びに取り組める大人の眼差しだと思います。まだ母子間、信頼のおける大人との愛着関係なしには安心は得られませんし、そうした安心感を抜きに子どもが自分から積極的に行為することは少ないといえます。信頼のおける大人の存在のもとで、身体を動かす運動を繰り返し、興味を持って遊びに向かえることがこの時期の子どもにとっても必要なことなのです。

私達の保育室では、そのことを日々、生活を通して子どもとの信頼関係を築きながら、道具・空間などの物的環境を整える努力をしています。十分に身体が満足できるように這える空間や、落ち着いて遊びに向かえる空間の確保、道具は口に入れても大丈夫なものから、子どもの好奇心をくすぐり・適度な刺激を与えるものなどを常に計画して用意するようにしています。与える道具一つも月齢による個人差が大きい時期でもあります。そのような子ども達の発達を考えると、個人個人に応じた適切な助けが必要なので、そのことに配慮して子ども一人一人を見るようにしています。

皆さんも、毎日毎日・一週間・一月毎に変わる子どもの変化は戻ってこないものなので、子どもその時を楽しんで見てください。同じように好奇心の目で我が子を見てみると、また発見があるかもしれませんね！

★練習遊びの道具の紹介

- ・ フィルムケース・ざる・タッパー
- ・ カットホース(5～6cm大にホースを切ったもの)
- ・ (ふくらませたもの)

ご家庭で身近にある物の中から、練習遊びとして子どもに与えられる道具を紹介しました。物によっては中にボタンや鈴など音の鳴るものを入れておくと、喜ぶと思います。

また中味の重さを変えていくつか同じ物を用意してみるのもいいでしょう。なめたり、振ったり、手で触ったり、子どもが確かめながら遊びます！

柏市駅前認証保育園 Kid's Encourage
園長 日下部樹江

